



KAIBORI News

No. 20
2019年3月

●発行
井の頭恩賜公園 100 年実行委員会
<http://inokashirapark100.com/>
事務局：東京都西部公園緑地事務所

●編集
認定 NPO 法人生態工房
<http://www.eco-works.gr.jp/>

池の再生は次のステージへ！



かいばりによって外来魚や水質の問題が改善しつつある井の頭池では、池をよみがえらせる活動が次の段階へ進みつつある。次なるテーマのひとつが、浅場などの湿地環境の整備だ。

水域と陸域をつなぐ湿地環境は移行帯（エコトーン）と呼ばれ、水生生物（特に稚魚や幼体）や、それらを食べる水鳥の大切なすみかとなる。井の頭池にはかつて、水深の浅いところにヨシなどの抽水植物が豊富に生育していた。今の池は垂直護岸で囲まれ、岸から急に深くなっているため、抽水植物が生育できる場所がほとんどない。そのためかいばり27以降、池に浅場を再生する取組が始まっている。

めざせ、湿地帯復活

葦島に湿地を再生するかいばり隊

浅場の断面図



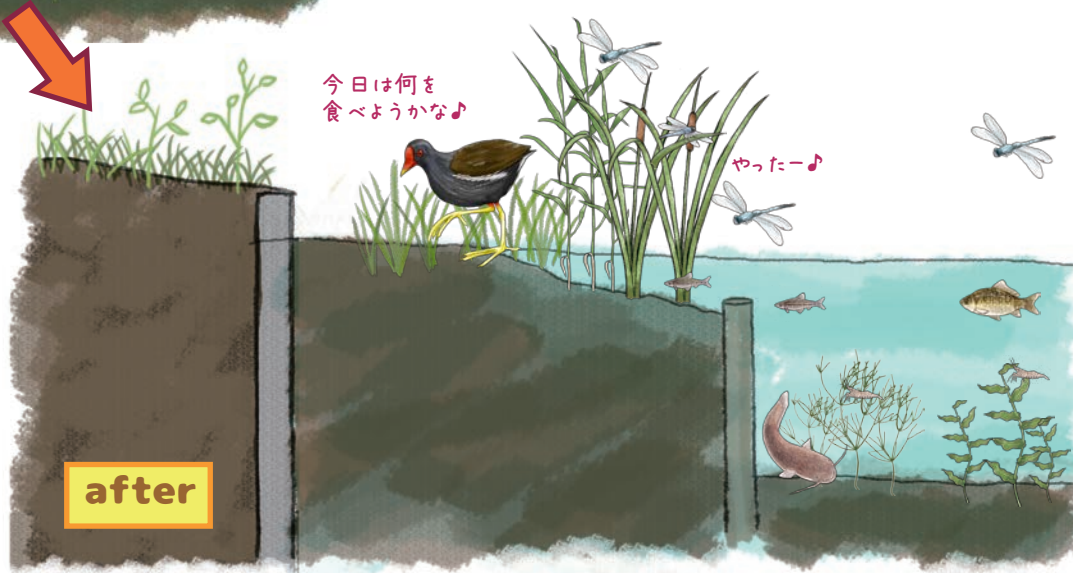
護岸はそのまま浅場を増やす

浅場を造るために、護岸で囲まれている池の構造を大きく変更するのは困難だ。井の頭池では、護岸をそのまま残しながら、その沖に杭や板で段を造って浅場とした。浅場の基盤造成はかいばりで水の無い期間を利用して専門業者が担った。さらに基盤の上に、人力作業で微地形を整備した。微地形整備はかいばり29で市民参加イベントとして行い、小学生から大人まで、296人が参加した。

浅場には、水生植物の発芽を期待して池底の泥を使っている。このように整備された浅場は、現在、池の水際線の9%に達している。



完成した浅場で採食するカルガモとオオバン



いけいけ！かいぼり隊

イケメン イケガール
～池男&池女、春に備えて…の巻～

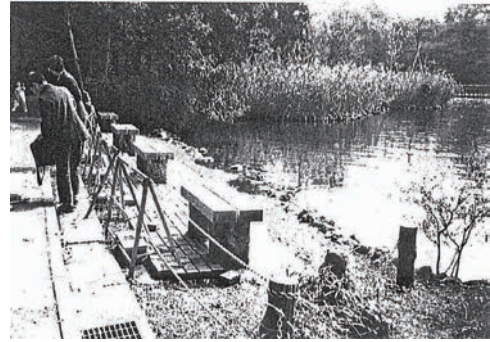


まるで漁師のようである

2018年は、前年と比べて井の頭池でのアメリカザリガニ捕獲数が激減した。ここで油断せず、引き続き十分な捕獲圧を加えていく。来シーズンにアメリカザリガニをさらに減少させられるかどうか、冬のワナ補修にかかっている！そんな思いでワナ補修にこそしむ、冬のかいぼり隊である。

アメリカザリガニは水温が低い冬期はワナに入りにくいので、捕獲作業は冬休み。かいぼり隊は春に備えてワナの補修に余念が無い。シーズン中、8ヶ月も池に浸け置かれていたワナは、ところどころ破れている。適宜補修をしていたが、網に空いている穴は、野外では見つけにくいのだ。ワナをキレイに洗い、落ち着いて丹念に点検すると…けっこう穴が見つかる。

ワナ補修は、「目も肩も疲れるけど、せっかく採れたアメリカザリガニが穴から逃げてしまっかともうと思うと、これは重要な任務ですよ」と語るかいぼり隊。



かつての葦島の景観(後方のヨシの茂み、1989年)

七井橋(左岸側)にある、葦島。水生植物が繁茂していたかつての井の頭池を再現する目的で、1966(昭和41)年に造成された。園路から離れていて日常的に手入れをできずにいる間に、シユロやムクノキ、トウネズミモチといった実生木が繁茂するようになっていた。2017年度に行われたかいぼり29を機に、当初目的としていた島の姿へ回復させる取組を進めている。

周囲の木杭を新しくして土壌流出を防ぎ、島の一部には池底の土を重機で充填した。実生木も取り除き、日当たりを回復させた。2018年には、明るくなった湿地に早くも湿生植物が繁茂し、カンエングヤツリやサジオモダカといった希少種も確認された。かいぼり隊による再整備も続いており、よりよい湿地に近づけている。乾いた陸地を掘って水に入れ、水深がひたひたな範囲を広くした。今期予定していた作業範囲を終えた3月、できたての泥地には、カルガモやオオバンが採食に訪れている。あとは春の芽生えを待つばかりだ。



作業後すぐにやって来たハクセキレイ

Topics

次の100年もっとよくなる！ 第3回 かいぼり報告会実施

2019年1月27日(日)、三鷹市公会堂光のホールにて「第3回井の頭池かいぼり報告会」が実施された。260名が参加した。今回は井の頭池での湿地再生をテーマに、基調講演には湿地帯生物の保全と研究で知られる中島淳氏(福岡県保健環境研究所)をお招きしました。このほか、魚・エビ、水草、水鳥のモニタリング結果と、浅場整備の活動報告が行われました。大トリは、三鷹市立第五小学校の高橋優駿くん(6年生)と藤井建至くん(4年生)による、「ボクたちから見た井の頭池。次の時代を担う子どもたちの素直な学習発表が心に響きました。最後の「次の100年、もっとよくなる！」というメッセージに、会場は大きな拍手に包まれました。



製作した横断幕を手元に記念撮影する高橋くん、藤井くん

今号のイチオシ！自然情報



アオサギ初営巣

2月末、井の頭恩賜公園で初めてアオサギ1つがいがかが営巣した。都内ではアオサギの生息は珍しくないが、繁殖地は非常に少ない。巣ができたのは、園路の上の高木。フンが落ちてくるので、公園職員が注意喚起の標識を出して見守っている。